

創立 50 周年記念(測量教室)事業の紹介

① 平成 28 年 6 月 3 日 (金) 測量の日記念事業『経緯度と日本の測量』

対象 金沢市立中央小学校 5 年生 98 人

場所 金沢市立玉川こども図書館 2 階交流ホール

当協会が平成 22 年 1 月 8 日同図書館 2 周年記念として、教育の振興を目的に経緯度標を寄贈した事を契機に、子どもたちの学習教材として活用を図るため、毎年社会科授業の一環として毎年行っております。最初に世界地図を作成したメルカトル（ドイツ）の地図の造り方や日本地図を作成した伊能忠敬の測量方法と経緯度の測り方、東日本大震災や熊本地震の地殻変動による移動量など、GPS を使用した日本の測量を説明し、帰りに正面玄関前の経緯度標を見学した際には、銘板記載の説明も行いました。



県測量設計業協会の担当者の説明を聞く児童ら＝金沢市玉川町で



測量や地図の歴史など学ぶ
金沢・中央小児童ら
「測量の日」の三日、金沢市中央小学校の五年生約百人が、市玉川こども図書館で測量や地図の歴史などに

ついて学んだ。県測量設計業協会の担当者が、「経緯度と日本の測量」をテーマに講義。緯度や経度と衛星利用測位システム（GPS）の関係や日本の地図製作の歴史などを説明した。

また、二〇〇七年の能登半島地震の際、震源地近くの陸地が約二十センチ海側に動いたことや三月の東日本大震災で仙台市などで数センチ海側へ動き、十センチ地盤沈下したことも紹介された。（山田祐一郎）

② 平成 28 年 6 月 10 日 (金) 『測量教室 + 体験学習』

対象 加賀市立動橋小学校 5,6 年生 60 人

場所 同校体育館、校庭運動場

『経緯度と日本の測量』の動橋版の授業を体育館で行ったあと、校庭運動場にて、伊能忠敬の1歩は70cmということで、自分の一歩を確認するため20mの間を何歩で歩いたかを測定しました。次に分度器とストローを使って校舎屋上までの角度を読み取り、校舎までの距離を歩測で測定後、方眼紙に三角形を書いて校舎の高さを割り出しました。さいごに、UAVにて上空から記念撮影を行いました。



自分の一歩の長さは？

県測量設計協 動橋小で体験学習



石川県測量設計業協会 (新家久司会長) は、今月3日の「測量の日」として10日、加賀市立動橋小学校で測量に関する体験学習を実施した。この日は同校の5、6

年生約60人が社会科の授業として参加。同協会の測量技術委員である国土開発センター計測事業部担当部長の小木孝一郎氏、日本海コンサルタント空間情報本部長の西本憲正氏が講師となり、経緯度や測量の仕方、地震による地殻変動などについて説明した。

グラウンドの実習では、児童がグループに分かれて歩測を体験。決められた距離を何歩で歩けるか数え、自分の歩幅を計算していた。写真。

③ 平成 28 年 10 月 11 日 (火) 『測量教室 + 体験学習』

対象 中能登町立鹿島小学校 6 年生 78 人

場所 同校食堂、校庭運動場

『経緯度と日本の測量』の鹿島版の授業を行ったあと、校庭運動場にて、伊能忠敬の1歩は70cmということで、自分の一歩を確認するため20mの間を何歩で歩いたかを測定しました。次に分度器とストローを使って目標物までの角度を読み取り、校舎までの距離を歩測で測定後、方眼紙に三角形を書いて目標物の高さを割り出しました。さいごに、UAVにて上空から記念撮影を行いました。



自分の一歩は何メートル？

鹿島小で測量教室体験学習

石川県測量設計業協会(新久司会長)は11日、同協会の創立50周年記念事業として、能登地区の小中学生を対象とする測量教室体験学習を中能登町の町立鹿島小学校で開催した。

測量教室は、すでに金沢、加賀の両地区で実施しており、今年度3回目の開催となる。この日は鹿島小学校の6年生39名が、社会科授業の一環として地図、測量、経緯度、地殻変動等について学び、とともに、歩測などの体験実習を通じて測量への興味を深めた。

はじめに、澤拓紀恵同校校長が

「今日は、皆さんが測量の伊能忠敬の測量手法やつて何？、ということを経緯度・緯度と長さの基準、実際に体験できるいい機会、日本の地殻変動と測量の会、算数の勉強にも役立つ関係などについて説明しようと思つた」とあいさつした。この後同校のグラウンドで、生徒たちが決めた距離を歩いて自分の歩数を数え一歩当たりを測ること。今日は、算数の歩幅が何メートルか計算を応用しながら測量を体験してもらいます。算したり「写真」、目標物までの水平距離を歩測で、目標物までの角度をストローと分度器で測り、目標物の高さを求める体験実習に挑戦。ドローイングを使った記念撮影も行った。

県測量設計業協会